

大村公園の バリアフリー化について

北村 貴寿 議員

Q 公園利用者の高齢化は避けられず再整備を急ぐべき。

県央リハビリテーション連絡協議会バリアフリー委員会が行った調査結果は提言とも言える質の高い内容である。大村の顔である公園の価値を更に高めるためには対処療法的な整備・改修ではなく、さまざまな分野のプロをシンクタンクとして市民協働で丁寧に整備を進めるべきだ。

A バリアフリー委員会の調査結果は、障がい者等の車の乗降時における安全確保やトイレの整備など、きめ細かな調査をされており、我々が気付かない部分まで指摘していただき、感謝している。今後、市民の皆様方の意見をよく聞き、取り入れて、方向づけができるようにしたい。



行財政・一般

指定管理者制度について

田中 秀和 議員

Q 制度の現状及び民間活力の活用、サービスの向上、経費の削減効果、市民満足度等の調査はどうなっているか。また、案件付き非公募更新は、応募者の増加、事業者のモチベーションの向上、従業員の雇用安定につながり、結果としてサービスが向上する。導入に向けて検討すべきである。

A 現在の総括、今後の運営方針等について検討しており、年明けの早い時期に報告する。非公募更新はインセンティブが有効に働くと考えており、今後の運営方針において導入できないか検討する。利用料金制度は現在、市民病院のみに導入しているが、スポーツ施設などの不特定多数の方が利用する施設には導入しようと考えている。

集会場を有する 町内会への支援について

朝長 英美 議員

Q 公民館とは別に集会場を有している町内会があり、公民館と同様の使用をしているが、老朽化が進んでいる。三浦地区のかんさく会館の場合と同様にこれらの町内会の集会場においても、地縁団体となり、補助金を受けたり、アドバイスをもらうことは可能か。ぜひ応援をお願いする。

A 三浦かんさく会館は、住民センターへのエレベーター設置の代替措置として、県補助金、宝くじ助成金を活用して建設するもので、他の集会場とは異質なものである。集会場を有する町内会への支援については、要件を具備していれば助成金の活用ができるのでサポートしていきたいと考えている。

長崎大学の誘致について

水上 享 議員

Q 市長の大きな構想として産・官・学の連携で大村市を発展させるため、企業誘致や県の機関の立地などが進められてきた。長崎大学の新学部誘致の方向性を2年以内に示すとのことであるが、決意を尋ねる。また、誘致の場所はどのように考えているか。各種団体や市民の協力を得て誘致行動を起こすべきだ。

A 地方都市の活性化の起爆剤の一つとして、若い人が集まる大学の誘致は大事であると認識している。長崎大学新学部の誘致は、この半年から1年が正念場である。誘致が実現できるように全力で取り組む。場所については新幹線新駅周辺を検討している。

